

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
5	1	4	土地改良費	262		

I：事業概要

施策事業名	土地改良
事業目的	土地改良施設の維持管理及び施設改修及び耐震対策
事業内容	●事業の全体計画 耕作に必要な水を確保し、農地を洪水や湛水から守る ●主な事業内容 ○土地改良（排水）事務 ・旅費、消耗品等 ・土地改良関係団体負担金 ○土地改良施設改修 ・単独土地改良事業（県費） 塔野地地区、大畔池地区 ・緊急農地防災事業（県費） 成沢川 ・愛知県が行う防災ダム事業等の一部負担金 耐震調査が行われたため池のうち対策必要と判定された池の耐震補強工事等の実施 善師野南地区、割洞第一池、落洞池、二ツ沢池、塔野地南地区、平谷第一池、切塞第一池 豪雨に対する越水被害対策の実施 入鹿上用水 ●主な決算の内訳 ・愛知県土地改良事業団体連合会負担金 610千円 ・測量実施設計委託料（成沢川） 15,001千円 ・土地改良施設改良工事費（塔野地地区、大畔池地区） 90,198千円 ・防災ダム事業負担金 60,677千円
事業の成果・効果	塔野地地区及び大畔池地区において土地改良施設の改修により、施設の機能確保を図り、善師野南地区外において、耐震対策が必要と判定されたため池の耐震補強工事等により、耐震化を図った。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (総見直し・総点検進捗評価は4段階)

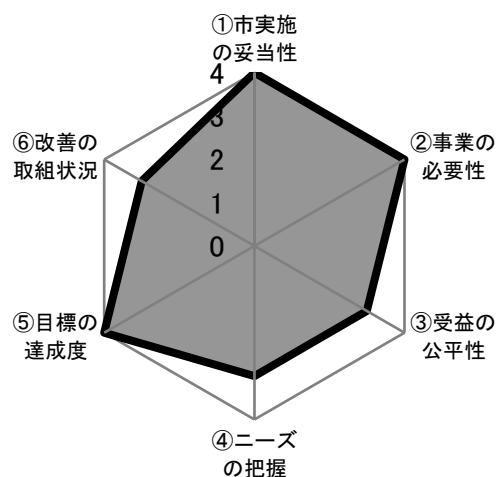
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
土地改良（排水）事務	883	0	883	100%	3	3	3
土地改良施設改修	165,876	131,521	34,355	21%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	166,759	131,521	35,238	21%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		131,207	166,759	79,731
財源内訳	国県支出金	63,280	63,921	33,837
	地方債	9,700	67,600	34,200
	その他	0	0	0
	一般財源	58,227	35,238	11,694
一般財源の割合		44%	21%	15%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	市が管理する法定外公共物である。
②事業の必要性	4	土地改良施設を適正管理することにより、耕作地の水の確保はもとより、洪水抑制機能等の多面的効果が発揮され、市民の生活向上に寄与している。
③受益の公平性	3	用排水路やため池は、農業用のみならず地域排水路や洪水調整機能を有しており、その効果は広範囲に及ぶ。
④ニーズの把握	3	受益者が申請人となっており、同意書をもって事業採択している。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	ため池の規模、被害想定の大きさ等により優先順位をつけて事業の平準化を行っている。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	防災重点農業用ため池の見直しを行った。
令和3年度に見直しを実施している事項	防災重点農業用ため池の劣化状況、地震及び豪雨耐性の評価等を実施し、優先順位の再検討を行う。
今後見直しを検討する事項	県と事業調整を行い、計画的な整備を推進していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
ほ場整備が完了して20年以上経過し、施設の老朽化や土砂の堆積が多くなり維持管理費が増加している。また、今後さらに老朽化が進むため、施設の長寿命化に向けて農業従事者との連携・協働が必要である。	地元要望に対し、事業の適正な選択が必要であるため、十分な現地調査と土木常設員のヒアリングなどにより公平に事業を実施する。また、県と連携し、防災ダム事業等を推進し、ため池の耐震性能向上を図る。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
7	2	2	道路新設改良費	284		

I：事業概要

施策事業名	一般市道新設改良																																															
事業目的	地元要望等に基づき、道路の新設、改良等の身近な幹線道路及び生活道路の整備を行うことにより、安心・安全で快適な生活環境の充実を図る。																																															
事業内容	●事業の全体計画 ・地元要望等に沿った事業展開の実施 ●主な事業内容 <table><tr><td>○市道今井41号線道路整備</td><td>道路改良工事</td><td>L=165m</td></tr><tr><td>○市道城前線道路整備</td><td>用地測量、道路詳細設計業務委託</td><td></td></tr><tr><td>○成田富士入鹿線関連道路整備</td><td>用地買収、物件補償</td><td></td></tr><tr><td>○市道羽黒前原台線整備</td><td>道路改良工事</td><td>L=137m</td></tr><tr><td>○市道一の宮線道路整備</td><td>道路改良工事</td><td>L=60m</td></tr><tr><td>○市道橋爪2号線道路整備</td><td>道路改良工事</td><td>L=590m</td></tr><tr><td>○若宮江南線関連道路整備</td><td>用地買収</td><td></td></tr></table> ●主な決算の内訳 <table><tr><td>○市道今井41号線道路整備</td><td>道路改良工事費</td><td>22,510千円</td></tr><tr><td>○市道城前線道路整備</td><td>道路詳細設計業務委託</td><td>9,801千円</td></tr><tr><td>○成田富士入鹿線関連道路整備</td><td>用地買収費</td><td>5,904千円</td></tr><tr><td></td><td>物件補償費</td><td>7,693千円</td></tr><tr><td>○市道羽黒前原台線整備</td><td>道路改良工事費</td><td>67,479千円</td></tr><tr><td>○市道一の宮線道路整備</td><td>道路改良工事費</td><td>12,149千円</td></tr><tr><td>○市道橋爪2号線道路整備</td><td>道路改良工事費</td><td>36,048千円</td></tr><tr><td>○若宮江南線関連道路整備</td><td>用地買収費</td><td>2,151千円</td></tr></table>			○市道今井41号線道路整備	道路改良工事	L=165m	○市道城前線道路整備	用地測量、道路詳細設計業務委託		○成田富士入鹿線関連道路整備	用地買収、物件補償		○市道羽黒前原台線整備	道路改良工事	L=137m	○市道一の宮線道路整備	道路改良工事	L=60m	○市道橋爪2号線道路整備	道路改良工事	L=590m	○若宮江南線関連道路整備	用地買収		○市道今井41号線道路整備	道路改良工事費	22,510千円	○市道城前線道路整備	道路詳細設計業務委託	9,801千円	○成田富士入鹿線関連道路整備	用地買収費	5,904千円		物件補償費	7,693千円	○市道羽黒前原台線整備	道路改良工事費	67,479千円	○市道一の宮線道路整備	道路改良工事費	12,149千円	○市道橋爪2号線道路整備	道路改良工事費	36,048千円	○若宮江南線関連道路整備	用地買収費	2,151千円
○市道今井41号線道路整備	道路改良工事	L=165m																																														
○市道城前線道路整備	用地測量、道路詳細設計業務委託																																															
○成田富士入鹿線関連道路整備	用地買収、物件補償																																															
○市道羽黒前原台線整備	道路改良工事	L=137m																																														
○市道一の宮線道路整備	道路改良工事	L=60m																																														
○市道橋爪2号線道路整備	道路改良工事	L=590m																																														
○若宮江南線関連道路整備	用地買収																																															
○市道今井41号線道路整備	道路改良工事費	22,510千円																																														
○市道城前線道路整備	道路詳細設計業務委託	9,801千円																																														
○成田富士入鹿線関連道路整備	用地買収費	5,904千円																																														
	物件補償費	7,693千円																																														
○市道羽黒前原台線整備	道路改良工事費	67,479千円																																														
○市道一の宮線道路整備	道路改良工事費	12,149千円																																														
○市道橋爪2号線道路整備	道路改良工事費	36,048千円																																														
○若宮江南線関連道路整備	用地買収費	2,151千円																																														
事業の成果・効果	地元要望等に基づき、市道今井41号線、羽黒前原台線、一の宮線及び橋爪2号線では道路改良工事を実施し、市道城前線では、詳細設計及び用地測量を実施し、道路整備に必要な用地を市道塔野地93号線（成田富士入鹿線関連）及び市道犬山公園小牧線（若宮江南線関連）で取得し、地域の生活環境の改善を進めた。																																															

II：個別事業内訳 (単位：千円) (総見直し・総点検進捗評価は4段階)

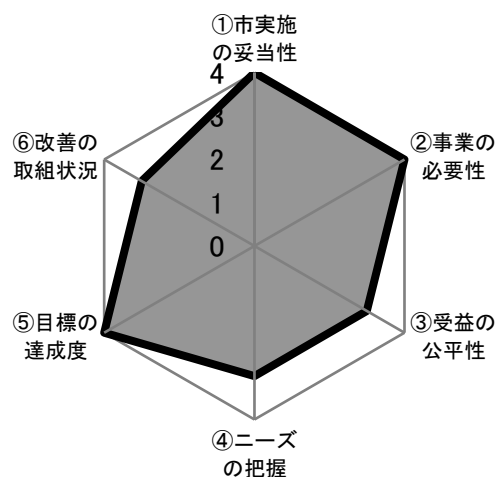
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
市道今井41号線道路整備	22,510	0	22,510	100%	3	3	3
市道城前線道路整備	10,970	0	10,970	100%	3	3	3
成田富士入鹿線関連道路整備	14,709	12,200	2,509	17%	3	3	3
市道羽黒前原台線整備	67,479	63,450	4,029	6%	3	3	3
市道一の宮線道路整備	12,149	10,800	1,349	11%	3	3	3
市道橋爪2号線道路整備	36,048	32,000	4,048	11%	3	3	3
若宮江南線関連道路整備	2,219	0	2,219	100%	3	3	3
合計	166,084	118,450	47,634	29%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		39,083	166,084	294,010
財源内訳	国県支出金	0	27,350	96,803
	地方債	0	91,100	168,400
	その他	0	0	5,015
	一般財源	39,083	47,634	23,792
一般財源の割合		100%	29%	8%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	地域の強い要望等に基づき、生活環境の改善や交通安全の確保を行うための道路整備であり、市が実施する必要がある。
②事業の必要性	4	生活環境の改善、安全性の確保に加え、災害時などの緊急車両等の通行の確保など、地域からの要望に応える事業として道路整備を推進していくことが必要である。
③受益の公平性	3	地域の生活道路として、地域住民の要望に基づく事業であるが、不特定多数の住民が利用するため、公平性は高い。
④ニーズの把握	3	土木常設員を通じた地域の要望等に基づいて、事業を推進している。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	地域からの要望を精査し、市民の生活環境の改善に資する事業効果の高い路線を選定し、地域と密接に連携して、コストの縮減に努めた。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	地元調整を密に図り、工事区間等事業効果の高い工事を実施した。
令和3年度に見直しを実施している事項	地域との調整を緊密に図り、より事業効果の高い路線の道路改良を推進していく。
今後見直しを検討する事項	早期に事業調整を行い、より事業性や効果が高い路線の絞り込みを行い、計画的に道路改良を推進していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
地域からの要望が多様化しており、地域との調整に加え、地権者や隣接者の意識が変化してきている中で、交渉等の難易度が上がっている。	事業の実施にあたり、地域や地権者等と事前に調整を図ることにより事業の絞り込みを行い、より事業効果の高い事業の推進していく。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
7	2	3	橋梁維持費	284		

I：事業概要

施策事業名	橋梁長寿命化										
事業目的	道路法で定められる5年に1回の法定点検を実施する。 点検結果をもとに平成30年度に策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づき、損傷度、重要度の観点から優先度が高いと判定された橋梁から補修工事を行う。										
事業内容	●事業の全体計画 ・道路の安全性を確保する上で計画的かつ予防的な対応に転換するため、橋梁を対象とした長寿命化計画を策定し、それに基づき点検及び長寿命化修繕工事を実施する ●主な事業内容 ○橋梁長寿命化 ・資材価格特別調査業務委託 ・橋梁長寿命化点検業務委託（榎木橋外59橋） ・橋梁長寿命化修繕設計委託（桜橋外7橋） ・橋梁長寿命化修繕工事（神ノ木高架橋） ・橋梁長寿命化点検名鉄負担金 ●主な決算の内訳 <table><tr><td>・資材価格特別調査業務委託</td><td>377千円</td></tr><tr><td>・橋梁長寿命化点検業務委託</td><td>34,536千円</td></tr><tr><td>・橋梁長寿命化修繕設計委託</td><td>17,336千円</td></tr><tr><td>・橋梁長寿命化修繕工事</td><td>7,079千円</td></tr><tr><td>・橋梁長寿命化点検名鉄負担金</td><td>7,401千円</td></tr></table>	・資材価格特別調査業務委託	377千円	・橋梁長寿命化点検業務委託	34,536千円	・橋梁長寿命化修繕設計委託	17,336千円	・橋梁長寿命化修繕工事	7,079千円	・橋梁長寿命化点検名鉄負担金	7,401千円
・資材価格特別調査業務委託	377千円										
・橋梁長寿命化点検業務委託	34,536千円										
・橋梁長寿命化修繕設計委託	17,336千円										
・橋梁長寿命化修繕工事	7,079千円										
・橋梁長寿命化点検名鉄負担金	7,401千円										
事業の成果・効果	平成25年度の道路法の改正に伴い、平成26年度から橋長2m以上の橋梁を5年に1回近接目視による定期点検が義務付けられており、榎木橋外59橋の点検、桜橋外7橋の詳細設計及び神ノ木高架橋の修繕工事を実施した。										

II：個別事業内訳 (単位：千円) (総見直し・総点検進捗評価は4段階)

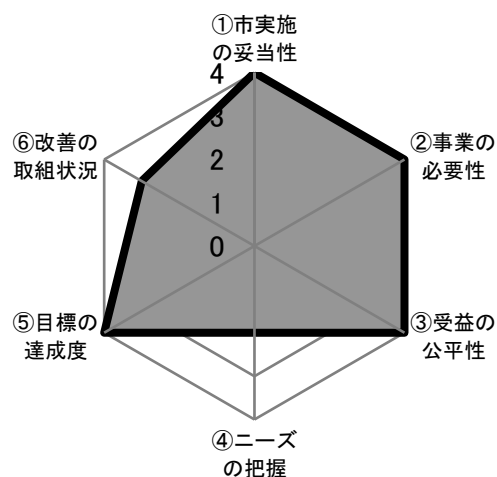
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
橋梁長寿命化	66,729	43,409	23,320	35%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	66,729	43,409	23,320	35%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		90,852	66,729	107,205
財源内訳	国県支出金	48,125	33,109	49,298
	地方債	18,500	10,300	19,900
	その他	0	0	0
	一般財源	24,227	23,320	38,007
一般財源の割合		27%	35%	35%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法に基づき、橋長2m以上の市道橋梁について5年に1度近接目視による定期点検を行わなければならない。
②事業の必要性	4	道路法に基づき、橋梁を点検する事業であり、市民の安全・安心を守るため、必要性が高い事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の対象橋梁について点検を行い、修繕を実施する事業であり、市民全般の安全・安心を守り、不特定多数の市民にサービスを提供する事業である。
④ニーズの把握	2	義務付けられた点検と点検結果に基づく修繕を行うもので、道路基盤整備は大規模災害に備える取組みとして求められている。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	道路法に基づく定期点検を計画どおり進めており、損傷度、重要度などの視点から適正に修繕を進めている。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	道路法に基づき、定期的な近接目視による点検を計画的に実施し、点検結果に基づき橋梁長寿命化計画の見直しを実施した。
令和3年度に見直しを実施している事項	橋梁長寿命化計画に基づき、定期点検を実施し、点検結果に基づき長寿命化対策を計画的に実施していく。
今後見直しを検討する事項	市民の安全・安心を守るため、計画的かつ予防的視点で積極的に橋梁の長寿命化工事を推進する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
橋長2m以上の全ての橋梁について5年に1回の近接目視を実施していく必要があり、継続していかなければならない。損傷度の高い橋梁について、優先して修繕をしていかなければならない。	令和元年度からは橋梁点検が2巡目に入り、適正に修繕を進めていく。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
7	2	4	橋梁新設改良費	286		

I：事業概要

施策事業名	橋梁新設改良
事業目的	新郷瀬川に架かる生活道路である市道橋について、県が実施する河川改修事業に併せて、安全で利便性の高い市道橋の改築を図る。
事業内容	●事業の全体計画 ・新郷瀬川改修に伴う市道橋の橋梁新設改良事業の実施 平成23年度～令和2年度（社会資本整備総合交付金） ●主な事業内容 ○新郷瀬川改修関連橋梁整備 橋梁改築工事負担金 ・海道橋（市道前原14号線） ・合戦橋一号橋（市道羽黒東35号線） ●主な決算の内訳 ・橋梁改築工事負担金（海道橋）108,337千円 ・橋梁改築工事負担金（合戦橋一号橋）52,949千円
事業の成果・効果	県が実施する新郷瀬川の改修工事に併せて市道橋の改築を行う事業であり、海道橋及び合戦橋一号橋の改修工事を継続的に実施した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (総見直し・総点検進捗評価は4段階)

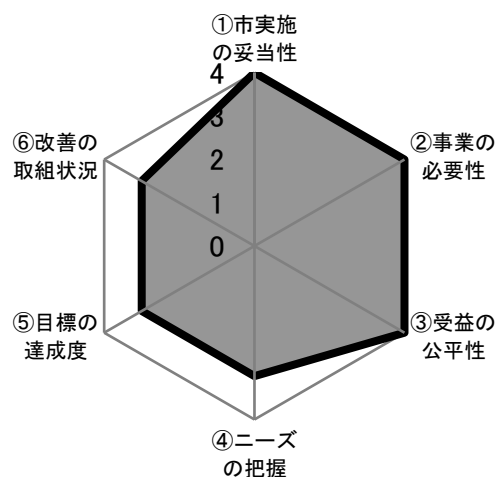
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
新郷瀬川改修関連橋梁整備	162,128	150,073	12,055	7%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	162,128	150,073	12,055	7%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		148,732	162,128	-
財源内訳	国県支出金	55,788	51,673	-
	地方債	83,300	98,400	-
	その他	0	0	-
	一般財源	9,644	12,055	-
一般財源の割合		6%	7%	-

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	生活道路に接続する市道橋を県の河川改修工事にあわせて、安全で利便性が高い市道橋に改築する事業であり、県が実施主体として実施し、市は負担金を支出する事業である。
②事業の必要性	4	生活道路として利用されている狭い市道橋を県が実施する河川改修工事にあわせて安全で利便性が高い市道橋に改築する事業であり、必要性が高い事業である。
③受益の公平性	4	生活道路としての市道橋改築であり、利用者は地域住民が多いものの不特定多数の市民が利用する公益性の高い事業である。
④ニーズの把握	3	県の河川改修工事にあわせて、市道橋の改築を実施しており、生活道路としての利便性の向上に資する事業であり、地域住民と調整を図り、事業推進をしている。
⑤目標の達成度	3	平成22年度から計画的に整備を進めており、若干の遅れが生じているが、概ね計画に沿って整備が進められている。
⑥改善の取組状況	3	県及び地元と連携して、計画に沿って、適正に事業を進めている。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	海道橋及び合戦橋一号橋の改築を計画的に実施した。
令和3年度に見直しを実施している事項	県と密に連携をしながら、県の河川改修事業にあわせて、市道橋の改築を効率的に実施していく。海道橋が完了予定であり、全ての市道橋が完了する予定。
今後見直しを検討する事項	引き続き県と連携して、計画的かつ合理的に市道橋の改築を進めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
平成22年度から計画的に事業を進めてきているが、若干の遅れが生じている。	海道橋が完了予定であり引き続き計画的に進め、早期に富士橋の整備ができるよう、県と連携を図り、計画的に事業を推進していく。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	3	1	河川総務費	286

部局名	都市整備部
課 名	整備課

I：事業概要

施策事業名	河川総務
事業目的	河川関係団体等の幹事会、総会の出席
事業内容	●事業の全体計画 ・河川総務事務 ●主な事業内容 ○河川総務事務 ・河川関係団体等負担金 ・旅費、消耗品等 ●主な決算の内訳 ・河川関係団体等負担金 195千円 ・旅費、消耗品等 81千円
事業の 成果・効果	各協議会の幹事会、総会に参加し、協議会として国、県に河川事業の陳情をした。

I I：個別事業内訳

(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

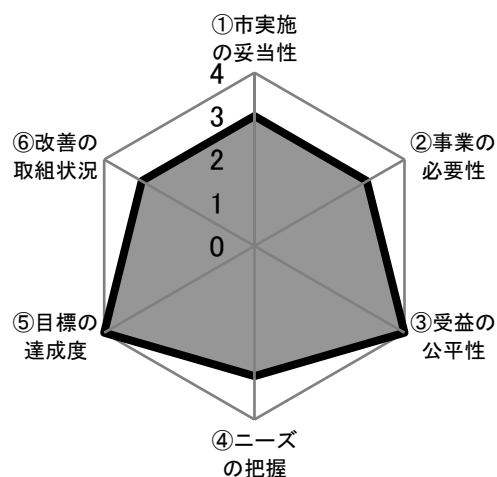
事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
河川総務事務	276	0	276	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	276	0	276	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		271	276	293
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	271	276	293
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図るため、加盟団体と共に、国、県に事業の必要性を継続的に説いていく。
②事業の必要性	3	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図るため、加盟団体と共に、国、県に事業の必要性を継続的に説いていく。
③受益の公平性	4	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図られることにより安心安全のまちづくりに寄与する。
④ニーズの把握	3	道路冠水軽減等の土木要望により把握している。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	繰越金の多い協議会等においては、負担金の見直し等を提言している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	繰越金の多い協議会等については、運営、事業等の精査、負担金の見直し等を進めている。
令和3年度に見直しを実施している事項	繰越金の多い協議会等については、運営、事業等の精査、負担金の見直し等を進めている。
今後見直しを検討する事項	運営、事業等の精査、負担金の見直し等を進めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
見直しを行うにあたっては関係市町村及び関係機関との調整が必要となる。	必要に応じ、関係市町村及び関係機関と連携や調整をしつつ、見直しを進めていく。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課名	整備課
7	3	2	河川改良維持費	286		

I：事業概要

施策事業名	河川改良維持
事業目的	県が事業主体として進める砂防事業に並行して、流末排水路整備を行うことにより、砂防施設の効果を最大限発揮し、地域住民の安心安全を確保する。名鉄犬山ホテルの建替えに合わせて、内田西排水区の雨水排水路改修を行うことにより、安全性の向上を図る。
事業内容	●事業の全体計画 ・県が施工する砂防事業に並行して、流末排水路整備を実施する ・内田西排水区の雨水排水路を下水道計画に合わせた断面に改修する ●主な事業内容 ○排水対策事業 ・細洞沢排水路工事 L=102m ・軌道下横断管布設工事に伴う名鉄負担金 ・内田西排水路工事 L=153m ●主な決算の内訳 ・河川排水路新設工事（細洞沢） 66,655千円 ・軌道下排水路工事名鉄負担金 11,876千円 ・河川排水路整備工事（内田西） 130,889千円
事業の成果・効果	細洞沢において、砂防事業に伴う流末排水路新設工事を実施した。内田西排水区において、名鉄犬山ホテルの建替えに合わせ、雨水排水路改修工事を実施した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (総見直し・総点検進捗評価は4段階)

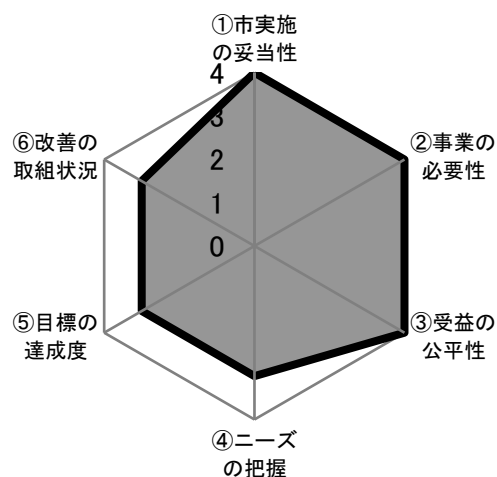
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
排水対策	209,420	164,300	45,120	22%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	209,420	164,300	45,120	22%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		25,414	209,420	2,012
財源内訳	国県支出金	1,483	0	2,012
	地方債	0	164,300	0
	その他	0	0	0
	一般財源	23,931	45,120	0
一般財源の割合		94%	22%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	排水区域内の浸水被害対策として市が実施する。
②事業の必要性	4	安全で安心して暮らせるまちづくりの観点から、浸水被害対策施設の整備は、市民福祉の向上に資する事業であり、事業実施が必須である。
③受益の公平性	4	豪雨時の道路冠水等の被害を軽減・防止する事業であり、広く市民生活の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	3	道路冠水軽減等の土木要望により把握。
⑤目標の達成度	3	関係機関を調整を図りながら事業を実施した。
⑥改善の取組状況	3	地元要望等から事業効果や緊急性により優先順位を検討し新規路線を採択する。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	細洞沢においては、県と調整を図りながら排水路新設工事を実施した。 名鉄ホテル建て替えに合わせた排水路付け替えについて名古屋鉄道㈱と調整を図りながら事業を実施した。
令和3年度に見直しを実施している事項	県など関係機関と調整を図りながら適切に事業を実施する。
今後見直しを検討する事項	地元要望等から事業効果や緊急性により優先順位を検討し新規路線を採択する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
近年、短時間に多量の雨が降る集中豪雨が頻発し、内水対策の重要性は高まっている。	事業効果や緊急性により優先順位を検討し事業を推進する。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
7	4	2	都市建設総務費	292		

I：事業概要

施策事業名	都市建設管理
事業目的	急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命を保護するため、急傾斜地の崩壊防止のために必要な措置を講じる。 犬山市の公共施設の適正な環境管理を推進することで、市街地及び近郊に潤いと憩いを感じる快適な生活空間を保全・創出する。
事業内容	●事業の全体計画 市内の急傾斜地崩壊危険区域において、県が施工する急傾斜地崩壊対策事業の事業費の一部を受益者である犬山市が負担する 公共施設の適正な環境管理を推進する ●主な事業内容 ○都市建設総務事務 ・旅費、消耗品、測量登記委託（公共嘱託） ・治水砂防関係団体等負担金 ○急傾斜地崩壊対策事業負担金 ○アメニティ協会 ・運営補助金、事務所管理 ●主な決算の内訳 ・測量登記委託料 2,047千円 ・土木積算システム単価配信負担金 1,914千円 ・急傾斜地崩壊対策事業負担金 11,380千円 ・アメニティ協会運営補助金 3,229千円
事業の成果・効果	御殿屋敷地区（池野）及び片洞地区（富岡）において、対策工事を実施した。 急傾斜地崩壊対策工事を実施することにより、土砂災害から市民を守ること、市民の安全・安心な生活が図られる事業であり、県事業（負担割合5%もしくは10%）として実施しており、事業効果は高い。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (総見直し・総点検進捗評価は4段階)

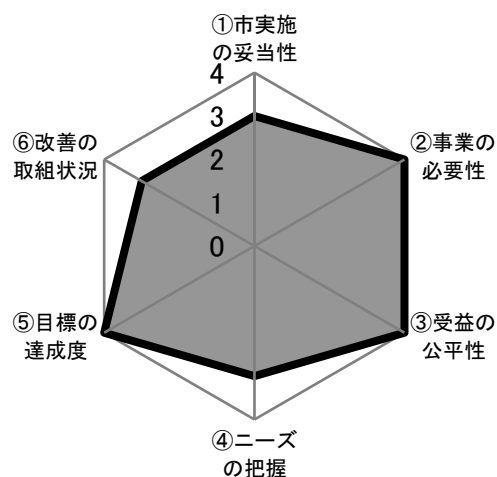
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
都市建設総務事務	5,636	0	5,636	100%	3	3	3
急傾斜地崩壊対策	11,380	11,100	280	2%	3	3	3
アメニティ協会	3,289	343	2,946	90%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	20,305	11,443	8,862	44%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		11,397	20,305	18,922
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	11,100	9,600
	その他	340	343	343
	一般財源	11,057	8,862	8,979
一般財源の割合		97%	44%	47%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	原則は地権者が対策を講ずべきであるが、市民の生命を守る視点から、県及び市が連携して事業を推進する必要がある。
②事業の必要性	4	急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命と財産を守る、非常に重要度の高い事業である。
③受益の公平性	4	急傾斜地崩壊対策工事によるハード対策とともに、防災マップなどを活用して土砂災害警戒区域を広く市民に周知することで、多くの市民の安全と安心を確保する事業である。
④ニーズの把握	3	土砂災害防止法に基づく危険箇所等について、地元からの要望等を踏まえつつ、対策工事を実施している。
⑤目標の達成度	4	地元及び県と調整を図った上で、県事業として計画的に事業を実施した。
⑥改善の取組状況	3	ハード整備とともに、防災訓練、土砂災害応急復旧対策費補助金の周知など広報等を活用し、住民の危機意識向上に努めていく。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	県と緊密な連携を図り、御殿屋敷区域及び片洞区域での急傾斜地崩壊対策工事に加えて、常福寺洞区域において測量調査を実施し、土砂災害対策の積極的な推進に努めた。
令和3年度に見直しを実施している事項	市民の安心・安全を守るため県と連携を強化し、新規の対策工事箇所の採択に向け、積極的に事業を展開できるように努める。
今後見直しを検討する事項	県との連携を強化し、対策工事のさらなる推進を図ると共に、啓発事業についてもより積極的に取り組みを進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命と財産を守る重要事業であるが、対策工事の規模が大きくなり、対策が必要な箇所の整備に時間を要する。	県に対して、対策工事の実施に向けた要望を積極的に行うとともに、土砂災害に関する防災訓練、土砂災害応急復旧対策費補助金の周知など広報等を活用し、市民周知の促進を図るソフト対策をあわせて推進していく。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
7	4	4	街路事業費	296		

I：事業概要

施策事業名	都市計画道路、駅前広場
事業目的	犬山市の市街地への通過交通の流入軽減対策及び市街地間の連絡のため、市街地内環状線や地域交通軸などの幹線道路を整備する。 犬山駅西広場について、通勤通学の市民及び城下町を訪れる観光客の利便性及び駅前の魅力向上を図る。
事業内容	●事業の全体計画 ・富岡荒井線道路整備 平成19年度～令和4年度 (番前地内) 令和元年度～ (惣作地内) ・犬山駅西広場整備 令和2年度 測量・詳細設計、整備工事 令和3年度 整備工事 ●主な事業内容 ○都市計画道路管理 ・維持管理(除草)、都市計画道路維持補修工事 ○富岡荒井線道路整備 ・道路、橋梁、交差点詳細設計 (惣作地内外) ・道路改良工事 L=75m (番前地内外) ・用地買収、物件移転補償 ○犬山駅西広場整備 ・測量設計業務、整備工事 ●主な決算の内訳 ○富岡荒井線道路整備 ・道路橋梁、交差点詳細設計業務委託 22,297千円 ・道路改良工事費 81,755千円 ・用地購入費 69,713千円 ・物件補償費 19,100千円 ○犬山駅西広場整備 ・測量設計業務委託 7,975千円 ・広場整備工事 19,816千円
事業の成果・効果	市街地への通過交通の流入軽減及び地域の交通軸となる幹線道路整備を推進するため、富岡荒井線の用地買収及び道路改良工事を実施した。犬山駅西広場については、詳細設計及び整備工事を実施した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (総見直し・総点検進捗評価は4段階)

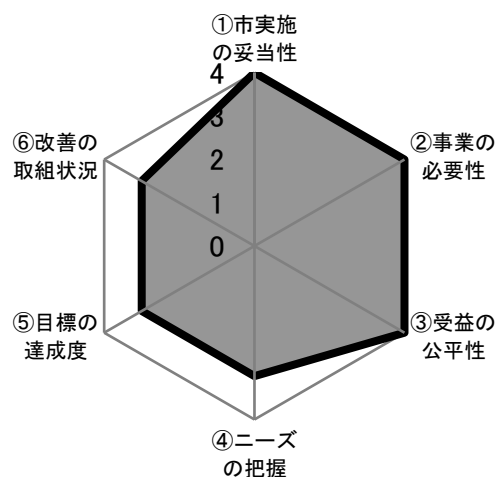
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
都市計画道路管理	2,750	243	2,507	91%	3	3	3
富岡荒井線道路整備	197,865	162,162	35,703	18%	3	3	3
犬山駅西広場整備	27,791	25,984	1,807	7%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	228,406	188,389	40,017	18%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		126,178	228,406	258,011
財源内訳	国県支出金	18,830	55,534	66,577
	地方債	20,800	130,300	161,700
	その他	356	2,555	25,079
	一般財源	86,192	40,017	4,655
一般財源の割合		68%	18%	2%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	都市計画道路整備事業として、市が主体となって実施し推進すべき事業である。
②事業の必要性	4	交通渋滞の緩和及び地域の発展に資する重要事業であり、早急に整備推進することが必要な事業である。
③受益の公平性	4	幹線道路の整備は不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	市民意識調査において、市内の道路の安全性や快適性について調査を実施しており、道路整備の推進について、市民ニーズは高い。
⑤目標の達成度	3	富岡荒井線については、計画どおりに事業を実施した。駅西広場整備については、隣接地のホテル建設と関連するため、名鉄と調整を図りながら事業を実施した。
⑥改善の取組状況	3	道路改良工事について、効率的に工事が進められるように努めており、用地についても課題点を精査し積極的に買収を進めた。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	難航していた地権者との交渉が進み用地取得を実施した。
令和3年度に見直しを実施している事項	富岡荒井線は、令和4年度の開通に向けて、整備促進を図る。
今後見直しを検討する事項	早期に用地取得、整備促進が図られるよう努める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
富岡荒井線については、令和4年度の開通に向けて、整備を進める必要がある。	早期に用地取得し、継続して整備を実施する。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課名	整備課
7	4	5	土地区画整理費	298		

I：事業概要

施策事業名	地区計画道路整備
事業目的	道路等の都市基盤施設が未整備である地区計画決定した地区について、この計画に基づき順次地区施設の整備を進め、民間開発を促すとともに低未利用地を活用し、良好な住環境を形成する。
事業内容	●事業の全体計画 橋爪五郎丸地区計画において、地区計画決定した道路計画に基づき順次道路整備を進める ●主な事業内容 ・測量嘱託登記 ・道路改良工事 市道橋爪53号線 ・用地購入（セツパ[®]ック分、市道五郎丸50号線外） ●主な決算の内訳 ・測量登記業務委託料 3,714千円 ・道路改良工事費 8,556千円 ・用地購入費 10,665千円
事業の成果・効果	地区計画決定をした地区について、順次道路等の都市基盤整備を進め、良好な住宅地の形成を目指す事業であり、計画に基づき用地買収を進め、市道橋爪53号線においては、道路改良工事を実施した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (総見直し・総点検進捗評価は4段階)

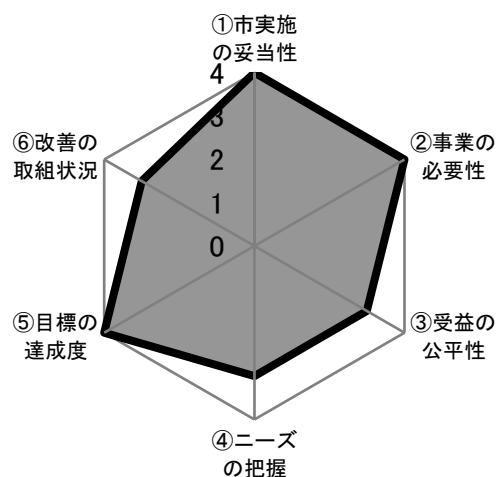
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
地区計画道路整備	22,935	11,600	11,335	49%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	22,935	11,600	11,335	49%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		9,335	22,935	57,563
財源内訳	国県支出金	0	0	14,325
	地方債	0	11,600	28,700
	その他	0	0	14,538
	一般財源	9,335	11,335	0
一般財源の割合		100%	49%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	地区計画決定に基づき、良好な住宅地の形成を進めるため、市が主体となって道路等の基盤整備を推進する必要がある。
②事業の必要性	4	都市基盤が未整備である地区計画決定をした地区の整備を進めることは、定住促進に資する重要な事業であり、推進する必要性は高い。
③受益の公平性	3	地区計画決定に基づき整備促進を図る事業であり、地域住民を対象としていることに加え、定住促進に資する事業として、多数の市民のサービス向上につながる事業である。
④ニーズの把握	3	市民意識調査においても、道路の安全性や快適性に対する市民ニーズは高く、市民からの問い合わせや要望等もあり、定住促進に資する事業として重要度の高い事業である。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	住宅建築の促進につながる事業効果が高い路線を選定して路線整備を進めているが、今後更なる整備促進をしていくため、より積極的に買収を進める方針の検討を進めた。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	事業効果が高い路線から順次整備促進を図ると共にセットバック箇所について積極的に買収を進める方針決定をした。
令和3年度に見直しを実施している事項	地区計画区域内の狭あい道路については、社会資本整備総合交付金を活用して事業を実施する。
今後見直しを検討する事項	早期の整備促進に向け、買収箇所の検討を進め、より効率的に事業用地の買収を行い整備促進につなげていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
用地買収及び整備を積極的に行っているが、全体の整備率としては低い水準にある。	定住促進に資する計画路線の整備を促進するため、社会資本整備総合交付金を活用し、より積極的に用地買収を進める。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	6	公園事業費	298

部局名	都市整備部
課 名	整備課

I：事業概要

施策事業名	公園整備
事業目的	公園を整備することにより、地域住民等の憩いの場としてやレクリエーション活動の場として提供し、良好なコミュニティを形成する。
事業内容	●事業の全体計画 ○岩田公園用地（塔野地地内）A=8,304㎡ 施設管理業務委託 ●主な事業内容 ○岩田公園用地維持管理（除草） ●主な決算の内訳 ・施設管理委託料（除草） 319千円
事業の成果・効果	地域の憩いの場となる公園用地について適正に管理を行った。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (総見直し・総点検進捗評価は4段階)

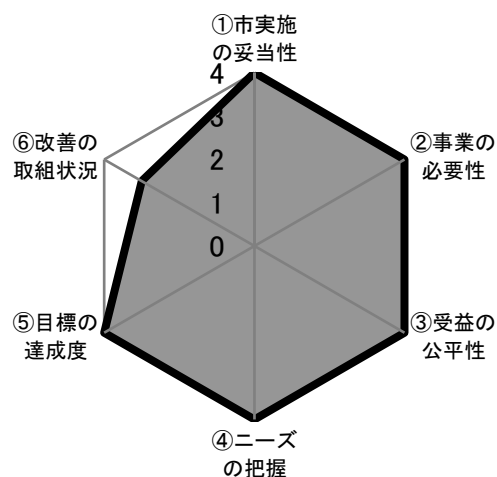
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
岩田公園整備	319	319	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	319	319	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		344	319	339
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	344	319	339
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	多くの市民の憩いの場に活用する公園施設の整備は市が主体として進める必要がある事業である。
②事業の必要性	4	市民の憩いの場としての公園施設の整備については、市民のニーズも高く、引き続き推進すべき事業である。
③受益の公平性	4	地域住民の憩いの場であるとともに、不特定多数の市民が活用する施設である。
④ニーズの把握	4	不特定多数の市民等が活用する施設であり、地元要望等市民ニーズを把握しながら進めている事業である。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	城東中学校南側多目的広場が整備に向けて事業を進めており、岩田公園整備の方針について、検討していく必要がある。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	適切な維持管理に努めた。
令和3年度に見直しを実施している事項	引き続き適切な維持管理を実施していく。
今後見直しを検討する事項	公園整備の方針について、検討していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
岩田公園の整備方針について、地元・関係機関等と協議を進め、方向性を定めていく必要がある。	地元・関係機関等の意見を聴取し、今後の岩田公園整備の方針について検討を進めていく。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
7	4	7	公園管理費	298		

I：事業概要

施策事業名	桜並木管理						
事業目的	桜を活かした快適な空間を保全・創造するため、桜並木の適正な維持管理を行う。						
事業内容	●事業の全体計画 ・道路及び河川敷の桜並木の適正な維持管理 ●主な事業内容 ○沿道（堤防）桜並木管理 ・桜並木の支障枝及び枯枝の剪定、危険木の間伐、樹木診断等実施 ●主な決算の内訳 <table><tr><td>・桜並木剪定業務委託料</td><td>15,194千円</td></tr><tr><td>・桜樹木診断事業委託料</td><td>2,277千円</td></tr><tr><td>・桜樹木伐採に伴う道路補修工事</td><td>480千円</td></tr></table>	・桜並木剪定業務委託料	15,194千円	・桜樹木診断事業委託料	2,277千円	・桜樹木伐採に伴う道路補修工事	480千円
・桜並木剪定業務委託料	15,194千円						
・桜樹木診断事業委託料	2,277千円						
・桜樹木伐採に伴う道路補修工事	480千円						
事業の成果・効果	市内の桜並木約2,800本について、桜樹木診断の結果に基づき、適正な剪定・管理を行い、桜並木を保全することで、観光資源や潤いある歩行者空間に資する景観を保全するとともに、老朽化したり、道路交通上支障となる桜については、剪定等を行い、安全の確保に努めている。						

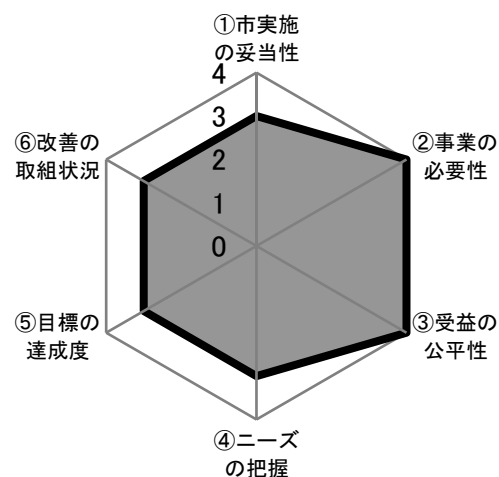
II：個別事業内訳 (単位：千円) (総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
沿道（堤防）桜並木管理	18,217	17,848	369	2%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	18,217	17,848	369	2%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		19,788	18,217	24,306
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	17,848	16,553
	一般財源	19,788	369	7,753
一般財源の割合		100%	2%	32%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市内の桜並木について、景観及び交通上の安全確保の観点から、市が主体として管理を実施していかなければならない。
②事業の必要性	4	観光資源や市民の憩いの場として、桜並木の景観を保全していく必要がある。加えて、老朽化した桜が交通安全上の支障となることから、安全・安心のまちづくりの観点からも継続が必要な事業である。
③受益の公平性	4	市民の健康づくりに資する遊歩道や犬山城周辺、五条川沿いの景観など、不特定多数の市民が利用し恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	桜並木の保全・適正管理に対する市民要望は強く、土木要望などにより市民ニーズを把握し取り組みを進めている。
⑤目標の達成度	3	桜樹木診断に基づき、倒木や折損等緊急的な危険がある樹木を剪定・伐採を行っている。
⑥改善の取組状況	3	桜樹木診断と連動して老朽化した樹木の管理に加え、交通支障となる樹木の剪定管理を推進した。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	老朽化した危険木判定に加え、交通支障木に対する適正な管理を進めた。
令和3年度に見直しを実施している事項	桜樹木診断と剪定管理業務をより効率的かつ適切に実施できるよう検討を進める。
今後見直しを検討する事項	桜樹木診断結果を基に実施する桜並木の管理委託業務をより、効率的かつ適切にできるよう内容の精査を引き続き行っていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
桜並木については、老朽化が進み、管理コストは増大していくことが想定される。	桜樹木診断に基づき、効率的な管理に努めるとともに、中長期的な視点に立った桜保全のあり方を検討していく。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
10	1	1	農業用施設災害復旧費	374

部局名	都市整備部
課 名	整備課

I：事業概要

施策事業名	災害復旧
事業目的	災害発生時の対応
事業内容	●事業の全体計画 突発的な自然災害において被害が発生した農業用施設の機能回復 ●主な事業内容 ○農業用施設災害復旧 ・災害復旧工事（新池）流入口復旧 ●主な決算の内訳 ・災害復旧工事費 6,706千円
事業の 成果・効果	大雨による農業用施設災害復旧工事を実施した。

I I：個別事業内訳

(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

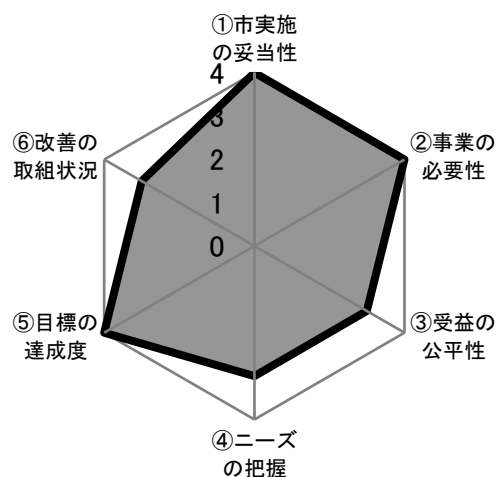
事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
農業用施設災害復旧	6,706	0	6,706	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	6,706	0	6,706	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		-	6,706	12,000
財源内訳	国県支出金	-	0	0
	地方債	-	0	0
	その他	-	0	0
	一般財源	-	6,706	12,000
一般財源の割合		-	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	災害時に、早期に復旧し、農業用施設の早期復旧を図る必要がある。
②事業の必要性	4	生活環境の改善、安全性の確保に加え、災害時の早期復旧など、地域からの要望に応える事業として推進していくことが必要である。
③受益の公平性	3	地域の生活環境を確保するため、地域住民の要望等を加味した事業であるが、不特定多数の住民への影響が大きいいため、公共性は高い。
④ニーズの把握	3	パトロールや通報、土木常設員を通じた地域の情報などに基づいて、事業を推進している。
⑤目標の達成度	4	災害発生時の対応を適切に実施した。
⑥改善の取組状況	3	災害発生時に早期の現場把握及び対応に努めた。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	災害発生時に早期対応が可能なように当初予算の確保に努めた。
令和3年度に見直しを実施している事項	引き続き、災害発生時の早期対応を目的として予算確保に努める。
今後見直しを検討する事項	愛知県と早期に調整を図り適切な対応を求めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
災害発生時のパトロールや通報、地元からの情報などにより災害箇所を把握するが、災害の状況によっては発見が遅れる場合もある。	災害発生時には地元と協力しながら災害箇所の確認及び対応を適切に進める。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
10	1	2	河川災害復旧費	374

部局名	都市整備部
課名	整備課

I：事業概要

施策事業名	災害復旧
事業目的	災害発生時の対応
事業内容	●事業の全体計画 突発的な自然災害において被害が発生した河川施設の機能回復 ●主な事業内容 ○河川災害復旧 ・災害復旧工事（平谷川外）土砂撤去 ●主な決算の内訳 ・災害復旧工事費 255千円
事業の 成果・効果	大雨による河川災害復旧工事を実施した。

I I：個別事業内訳

(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

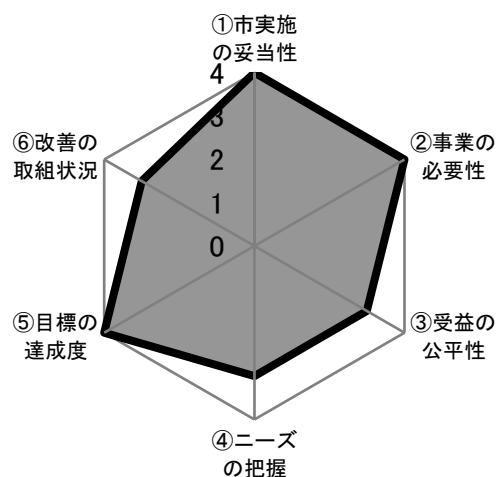
事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
河川災害復旧	255	0	255	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	255	0	255	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		418	255	12,000
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	418	255	12,000
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	河川管理者として、災害時に、早期に復旧し、二次災害を防ぐ必要がある。
②事業の必要性	4	生活環境の改善、安全性の確保に加え、災害時の早期復旧など、地域からの要望に応える事業として推進していくことが必要である。
③受益の公平性	3	地域の生活環境を確保するため、地域住民の要望等を加味した事業であるが、不特定多数の住民への影響が大きいいため、公共性は高い。
④ニーズの把握	3	パトロールや通報、土木常設員を通じた地域の情報などに基づいて、事業を推進している。
⑤目標の達成度	4	災害発生時の対応を適切に実施した。
⑥改善の取組状況	3	災害発生時に早期の現場把握及び対応に努めた。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	災害発生時に早期対応が可能なように当初予算の確保に努めた。
令和3年度に見直しを実施している事項	引き続き、災害発生時の早期対応を目的として予算確保に努める。
今後見直しを検討する事項	愛知県と早期に調整を図り適切な対応を求めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
災害発生時のパトロールや通報、地元からの情報などにより災害箇所を把握するが、災害の状況によっては発見が遅れる場合もある。	災害発生時には地元と協力しながら災害箇所の確認及び対応を適切に進める。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

企業会計名	決算書(P)	部局名	都市整備部
下水道事業会計	—	課 名	整備課

I：事業概要

施策事業名	公共下水道事業・資本的収支
事業目的	ゲリラ豪雨等による道路冠水などの被害の軽減及び平成16年に特定都市河川浸水被害対策法が施行され、平成18年一級河川新川流域が特定都市河川流域に指定されたことに伴う対策事業を行う。
事業内容	●事業の全体計画 ゲリラ豪雨等による道路冠水などの被害の軽減を図る施策を実施する ●主な事業内容 ○五ヶ村雨水幹線整備事業 ・雨水幹線予備設計委託 ・下水道法事業計画策定委託 ●主な決算の内訳 ・雨水幹線予備設計委託料 20,900千円 ・下水道法事業計画策定委託料 6,457千円
事業の成果・効果	ゲリラ豪雨等による道路冠水などの被害軽減対策事業実施に向けて予備設計を実施し、公共下水道事業として進めるため事業計画を変更した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (総見直し・総点検進捗評価は4段階)

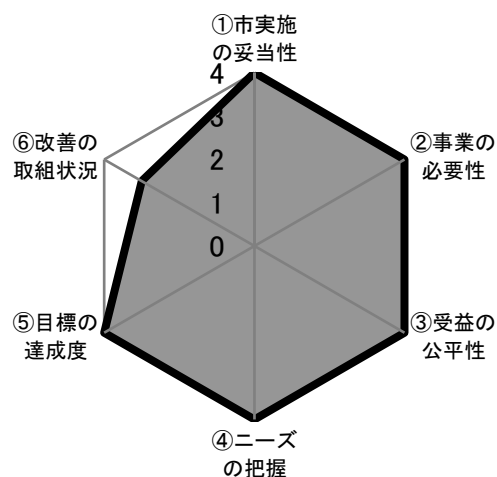
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
五ヶ村排水路整備	27,357	27,357	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	27,357	27,357	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		402,735	27,357	87,783
財源内訳	国県支出金	159,940	0	35,000
	地方債	165,700	0	52,600
	その他	77,095	27,357	183
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	平成15年6月11日に成立した特定都市河川浸水被害対策法に基づく総合治水対策による事業である。
②事業の必要性	4	安全で安心して暮らせるまちづくりの観点から、浸水対策施設の整備は、市民福祉の向上に資する事業であり、事業実施が必須である。
③受益の公平性	4	豪雨時の道路冠水等の被害を軽減・防止する事業であり、広く市民生活の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	4	道路冠水軽減の土木要望により把握。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	公共下水道事業として事業を実施していくために、計画変更等を進めている。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	公共下水道事業として事業を実施していくために、事業計画を変更した。
令和3年度に見直しを実施している事項	社会資本整備総合交付金の対象事業として、詳細設計及び測量を進めていく。
今後見直しを検討する事項	詳細設計に基づき、必要に応じて今後の事業計画の見直しを行う。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
五ヶ村排水区について、事業計画を変更し適切な事業内容及び事業期間を設定し、社会資本整備総合交付金を要望する必要がある。	五ヶ村排水区について、適切な事業内容及び事業期間を設定し、交付金を要望していく。